

「自分の健康に気を付けて」



西尾修欣教育委員

昨年度末に始まった新型コロナウイルスによる学校休業。再開したのもつかの間、大雨による休校で休業中の2カ月の遅れを挽回することもままならず。梅雨が明けた後の猛暑続きで熱中症の心配が。いつもと違う非日常が続く中、学校現場での先生方のご苦勞はいかばかりかと思われます。コロナ対策に加え熱中症への備えもしなければならず、子どもたちの健康を気遣ってくださる先生方に申し上げたい。ご自分の健康にも気を配ってください。

先生方も生身の人であり、ウルトラマンやスーパーマンではありません。肉体的にも精神的にも健康でなければ、子どもたちのそれを気遣うことは難しいでしょう。

恵那市内のすべての教育関係者の皆さん、どうかご自愛ください。それが子どもたちのためにもなるのです。

本の読み聞かせは、読字脳をつくる

（恵那市中央図書館）



幼児期における家庭での読み聞かせは、子どもが本と出会うためのはじめの一歩です。

最近読んだ本の中に『デジタルで読む脳×紙の本で読む脳』があります。

この本によると、乳幼児期に親が子どもに本の読み聞かせをすることで子どもは文字を読むための読字脳を発達させることができ、この脳が発達するほど、物事をじっくり考え、創造性の豊かな「深い読み」を育むことができるようになっていくと考えています。一方、デジタル媒体を学ぶことで、瞬時に判断することや、複数の作業を同時にもしくは短期間に並行して切り替えながら実行できるマルチタスクの能力が身に付くと考えられています。ちなみに電子書籍で子どもと本を読むときは、しばしば物語の内容や言葉や考え方より、むしろ機械的でゲームのような要素に集中するともいわれています。

つまり、紙の本をはじめとする印刷媒体とタブレットをはじめとするデジタル媒体はどちらも必要ですが、特に文字を読むための読字脳を発達させるには、乳幼児期に親が子どもに紙の本をゆっくり何度も読み聞かせることで、言語能力、創造性や、じっくり考える能力が備わって、「深い読み」ができるようになると思われます。

外出の機会が少なくなった今こそ、ステイホームで読書を。



コロナ禍での幼児教育

(幼児教育課)

コロナ禍においても、遊びの中での育ちと学びがある幼児期の特性を踏まえ、各園で工夫した活動を行っています。

職員が表情や口の動きが見えるクリアマスクを臨機応変に使用し、幼児期の言葉の獲得や理解につながるようにしています。また、熱中症対策と併せたミストシャワー、密を防いだ読み聞かせ等に活用できる大画面モニターの設置など、園活動の充実に向けて環境を整えています。

今後も安心と信頼のある教育・保育を目指して、恵那市の幼児教育を推進していきます。



▲大画面モニターを利用し、本の読み聞かせ

短い夏休みも、思い出はいっぱい

(スポーツ課)

今年の夏休みは、新型コロナウイルス感染症により、短い夏休みとなりました。そんな中、クリスタルパーク恵那スケート場では、短い夏休みでも思い出をいっぱい作ってもらおうと、「夏の思い出インライン」と「夕涼みインライン」を開催しました。

夏の思い出インラインでは、市内小中学生のインライン滑走料を無料とし、8月9日から16日までの9日間開催。期間中延べ638人の来場者



▲無料インライン教室



▲パチンコ紙飛行機

がありました。来場者にはかき氷のプレゼントもあり、暑い中でもホッとできるひと時が過ごせました。また土曜日、日曜日、祝日には恵那市レクリエーション協会の協力の下、工作教室を開催し、パチンコ紙飛行機を作成。小さなお子さんも一生懸命紙飛行機を作成し、その場で飛ばして遊ぶなど、夏の思い出づくりができました。

夕涼みインラインは、8月8日、15日の土曜日の午後5時から2日間開催し、314名が夏の夜のスケート場を楽しみました。こちらのイベントもインラインスケートの滑走料無料や来場者全員へのかき氷プレゼント、小学生以下のお子さんへのヨーヨー風船プレゼントなど、縁日を思わせるようなイベントとなりました。また8日にはバルーンパフォーマンス、15日には大道芸のステージイベントも開催。観客からは大きな拍手が送られ、ステージは大いに盛り上がりました。

なお、このイベントは、入場者の協力の下、人数制限するなど、新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインに沿って実施されました。



▲短い夏休みを楽しむ姿



▲迫力あるパフォーマンスに拍手